

Point of care

超音波で外来・在宅の診断推論は変わるか？

東灘区・東神戸病院 水間 美宏（医師）

診療所や在宅診療で精査必要と判断しても病院への紹介をためらうことがある。そこで問診、視触診、打聴診に Point of care 超音波（POCUS）を加えて判断に影響が出るか検討した。対象は 2017 年 8 月から 2019 年 6 月までに、病院と診療所の外来や在宅診療で POCUS に続いて精査した 752 人である。装置はセクタトリニアプローブを有する GE 社 Vscan Dual Probe である。

精査結果を正診とした POCUS の精度は、感度 73%、特異度 83%だった。心臓 119 例では感度 91%、特異度 93%で、POCUS で心疾患がなければ精査しないことも可能と考えた。肺 200 例では感度 72%、特異度 73%で、多発 B ラインの判断に難渋した。腹部 368 例では感度 73%、特異度 84%で、腸疾患偽陰性例の減少にコンベックスプローブの開発が期待された。POCUS の特性を考慮した上で判断することは診療に有用と考えた。